

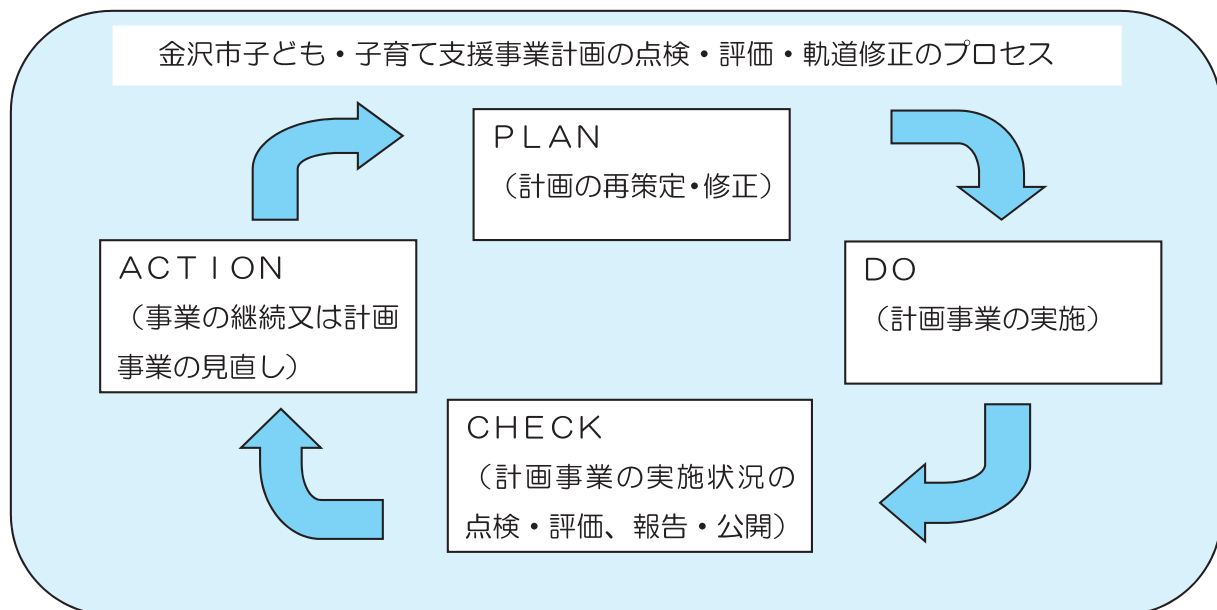
## 第4章 子ども・子育て支援事業計画の推進と点検・評価

### 1 事業の達成状況の報告と点検・評価

計画期間の5か年の間、本計画における教育・保育の確保や施策の実施状況など子ども・子育て支援事業の達成状況を、毎年金沢市子ども・子育て審議会に報告し、市民にも公表して、点検・評価を行うとともに、必要に応じて変更を加えます。

### 2 PDCAサイクルによる軌道修正

点検・評価結果に基づき、事業計画の見直しを適宜図り、「PLAN（計画の再策定・修正）→DO（計画事業の実施）→CHECK（計画事業の実施状況の点検・評価、報告・公開）→ACTION（事業の継続又は計画事業の見直し）」というPDCAサイクルにより、計画された事業を趣旨に照らして、より意義や価値の高いものにしていきます。



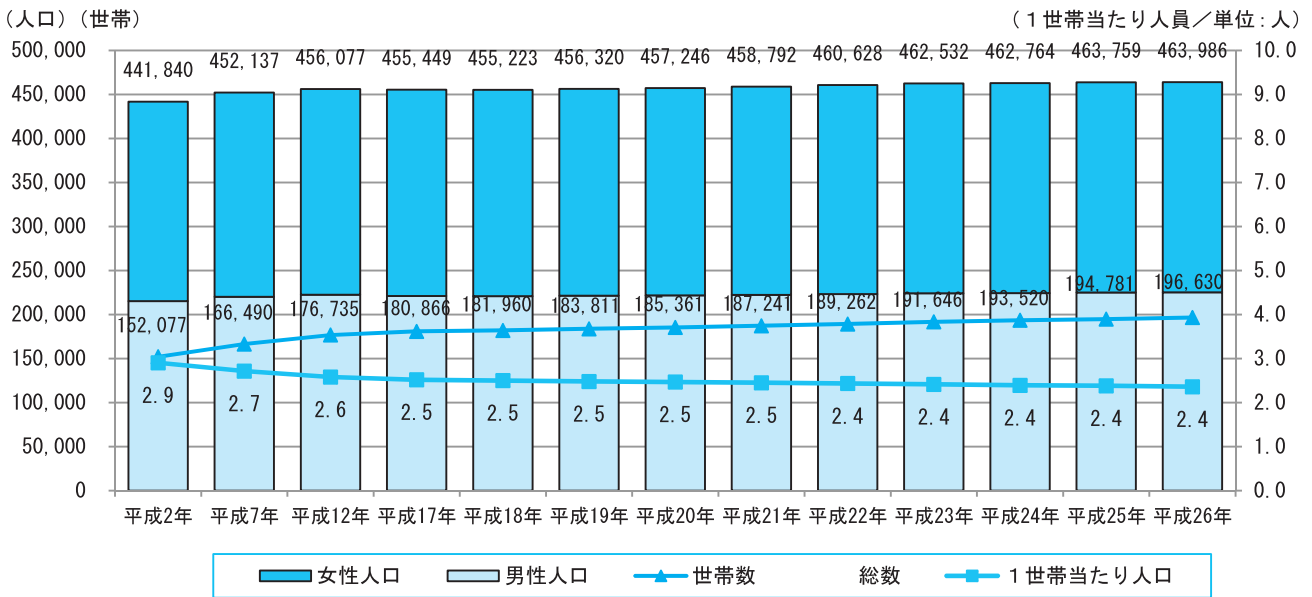
# 第5章 子どもと子育てを取り巻く現状と課題

## 1 金沢市の子どもと家庭の状況

### (1) 金沢市の人口及び世帯数の状況

多くの地方都市がすでに人口が減少するなか、本市は緩やかながら人口増加が続いていますが、世帯数がやや増加してきた一方、1世帯あたり人員数は徐々に低下しています。

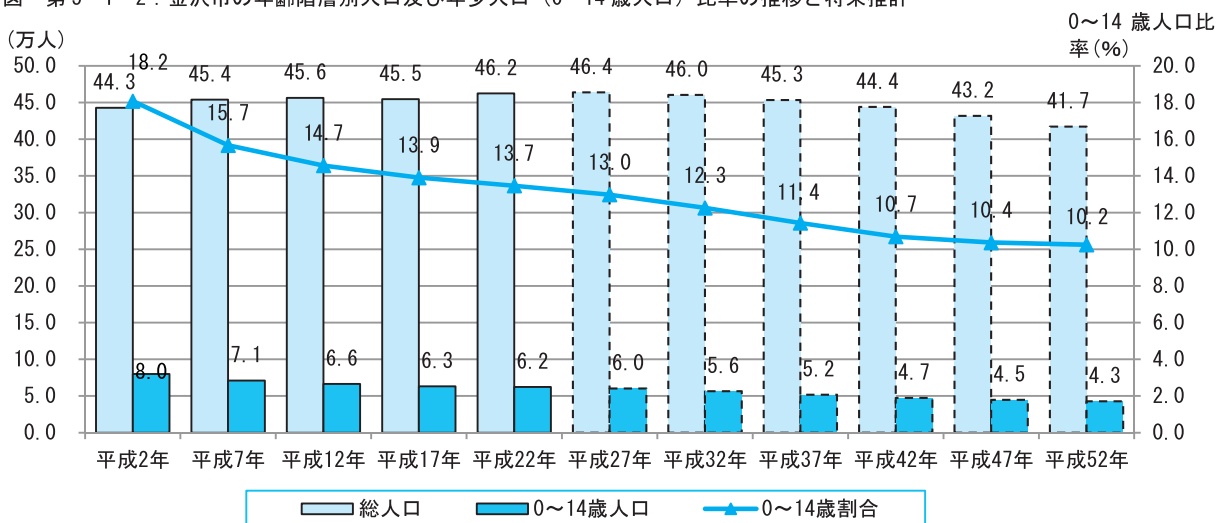
■図 第5-1-1：金沢市の人口、世帯数及び世帯あたり人員数の推移



出所：「平成25年度 金沢市統計書」、「国勢調査」

年少人口（0～14歳）は、人数、本市の総人口に占める比率ともに緩やかに減少しており、将来推計では平成52年（2040年）に4万3千人弱、人口比10.2%になることが予想されています。

■図 第5-1-2：金沢市の年齢階層別人口及び年少人口（0～14歳人口）比率の推移と将来推計



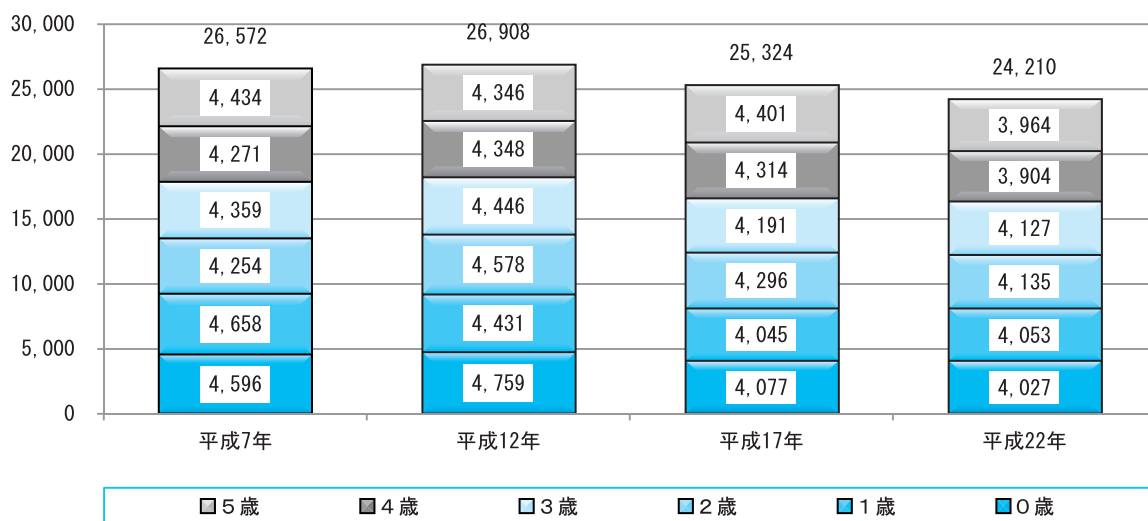
出所：「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成25年3月推計）

## (2) 金沢市の子どもの概況

本市の就学前児童（0～5歳）の1歳階級別人口の推移をみると、平成12年から平成22年の10年間にどの年齢階級の児童もほぼ次第に減少しており、市の総人口に占める比率も減少傾向にあります。本市の2040年までの若年人口推計が減少傾向を示していることから、これまで続いてきた就学前児童の減少は今後も続くことが見込まれます。

■図 第5-1-3：金沢市の年齢階級別の子ども人口の推移

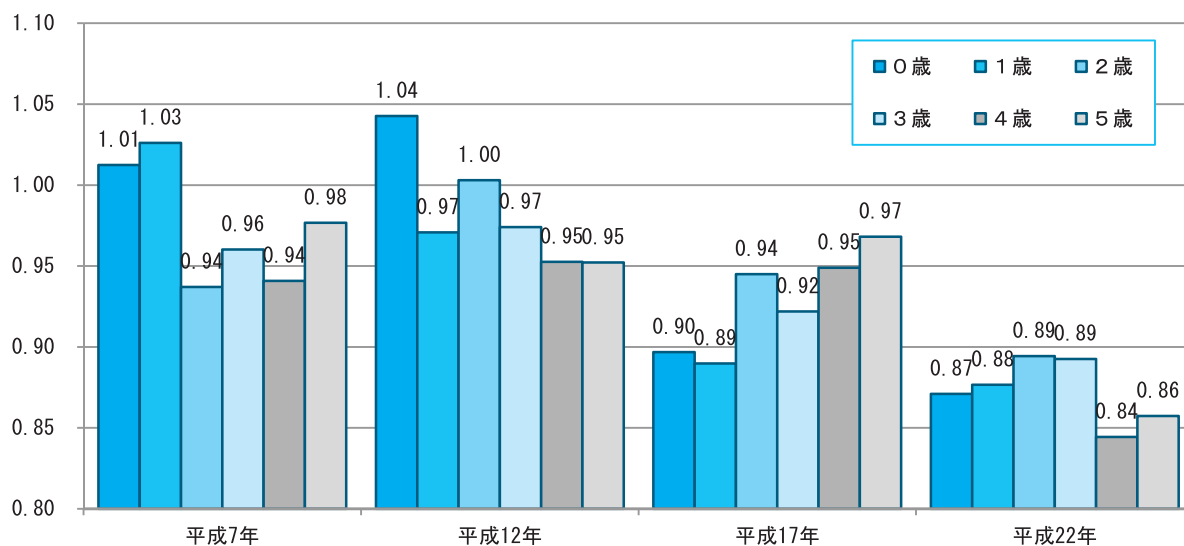
子ども人口(人)



出所:「国勢調査」

■図 第5-1-4：金沢市の0～5歳児の総人口に占める比率の推移

(%)



出所:「国勢調査」

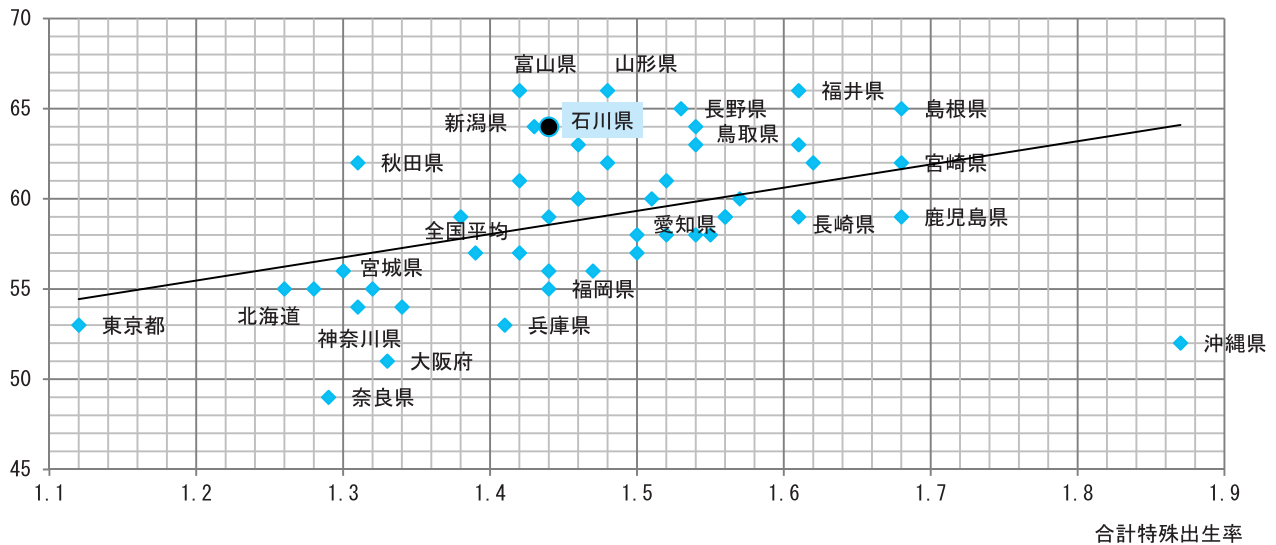
### (3) 仕事と家庭生活の状況

#### ア) 女性の就業率と合計特殊出生率

都道府県別の女性の就業率と合計特殊出生率の関係をみると、女性の就業率が高いほど合計特殊出生率も高い傾向があることが示されており、女性の就労や社会進出が少子化の直接の原因となっているわけではありません。このことから、少子化対策にあたっては就労環境を整備するとともに、保育サービスの充実も必要であると思われます。

■図 第5-1-5：都道府県別の女性就業率と合計特殊出生率の相関

女性の就業率 (%)



出所：「人口動態調査」、「国勢調査」

#### イ) 子どものいる世帯の共働き率

金沢市は、就業構造基本調査によれば「共働き世帯比率」(※1)が51.4%と、47都道府県の県庁所在都市及び人口30万人以上の85都市間での比較で8位と比較的高い水準にあり、「子どものいる世帯の共働き率」(※2)も60.7%と、11位となっています。

就業構造基本調査でみた「子どものいる世帯の共働き率」は、子どもの年齢を限定したものでないため、「子育て世帯」の共働き率を示したものではありませんが、いずれの値も「47都道府県の県庁所在都市及び人口30万人以上の85都市」間では相対的に高い水準にあります。

※1：「夫婦からなる世帯」全体のうち、「夫婦とも有業」の世帯の占める割合

※2：「夫婦と子どもからなる世帯」全体のうち、「夫婦とも有業」の世帯の占める割合  
子どもの年齢はとくに限定していない

■表 第5-1-6：主要都市と比較した金沢市の共働き率の状況

(47 都道府県の県庁所在都市及び人口 30 万人以上の 85 都市間で比較)

都道府県	市	子どものいる世帯の共働き比率 (%)	順位	共働き世帯比率 (%)	順位
85 都市の平均		51.0	—	43.5	—
福井県	福井市	69.3	1	58.5	1
島根県	松江市	63.8	2	52.1	3
長野県	長野市	63.3	3	54.8	2
石川県	金沢市	<b>60.7</b>	<b>11</b>	<b>51.4</b>	<b>8</b>
富山県	富山市	60.5	13	50.9	10
東京都	特別区部	50.1	58	45.6	30
大阪府	大阪市	49.6	61	40.7	64
神奈川県	藤沢市	40.5	85	37.2	83

※比較は、47 都道府県の県庁所在都市及び人口 30 万以上の 85 市間で行ったもの  
出所：「平成 24 年就業構造基本調査」

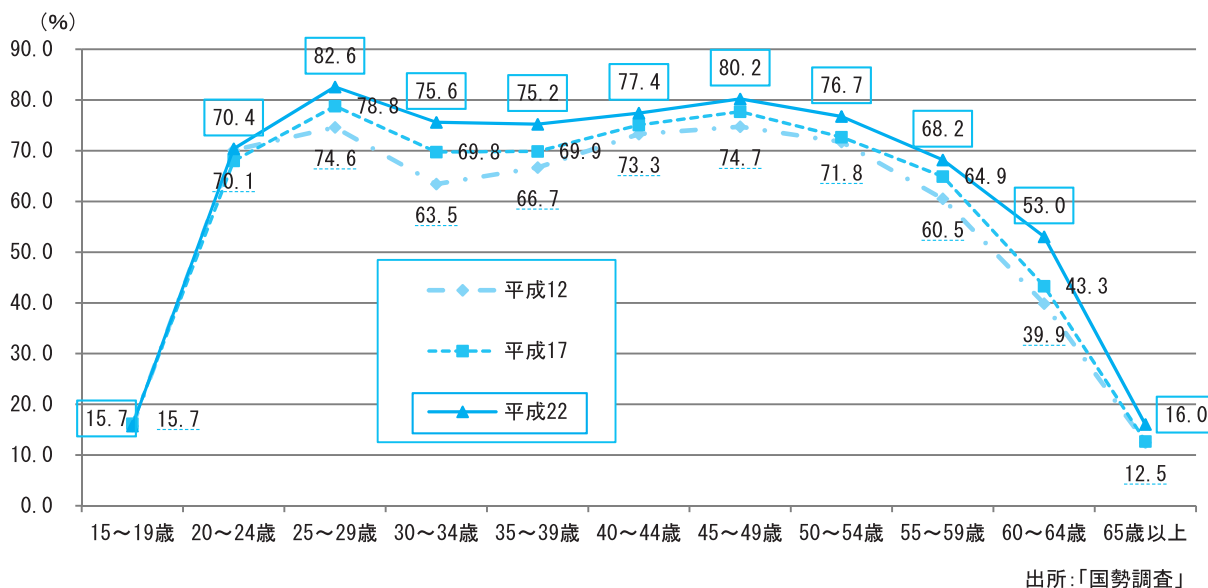
ウ) 女性の労働力率

年齢層別に見た我が国の女性の労働力率は、20 代半ばと 40 代半ばという二つのピークを持ついわゆる「M字カーブ」を描くことが知られています。これは、出産・育児を機にいったん離職・非労働力化し、その後育児が終わってから再び働き出す女性が多いことを反映しており、我が国における継続就業の難しさを示していると考えられています。

本市のM字カーブは過去と比較すると、25～39 歳における「くぼみ」が浅くなってきています。

しかし、「平成 18 年版 国民生活白書（第 2 章第 2 節）」などですでに指摘されているように、近年の「M字カーブのくぼみの解消傾向」は、25～39 歳の年齢階級に占める「労働力率の高い未婚女性」の比率上昇、すなわちこの年齢階級の晩婚化の影響が大きく、出産・育児期の女性の就業継続はあまり増加していないという見方があります。平成 22 年データでは、M 字カーブの底が 30～34 歳から 35～39 歳に移行していることから、晩婚化による晩産化の傾向が見てとれます。

■図 第5-1-7：金沢市の女性の労働力率の推移



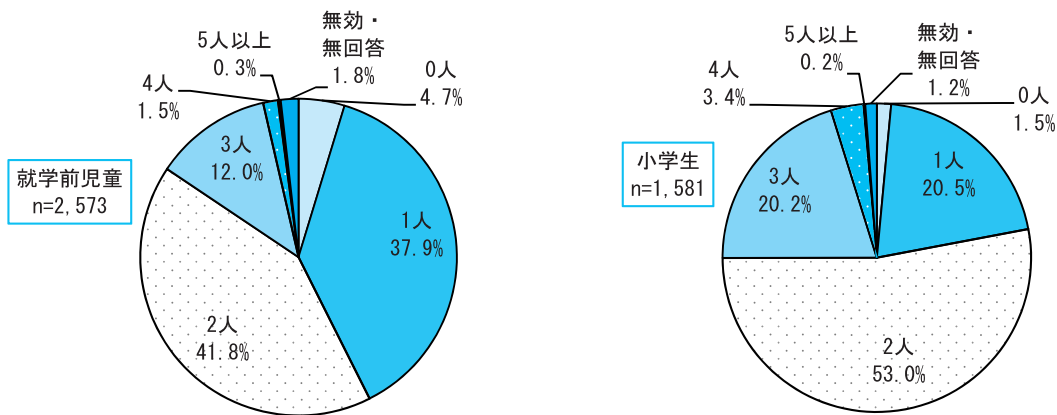
## 2 ニーズ調査から見た金沢市の子育て家庭の状況とニーズ

～「金沢市子ども・子育て支援事業計画及びかなざわ子育て夢プラン2015策定のためのアンケート調査結果報告書」（平成25年度）から～

### (1) 金沢市の子育て世帯の子どもの人数と主な保育者

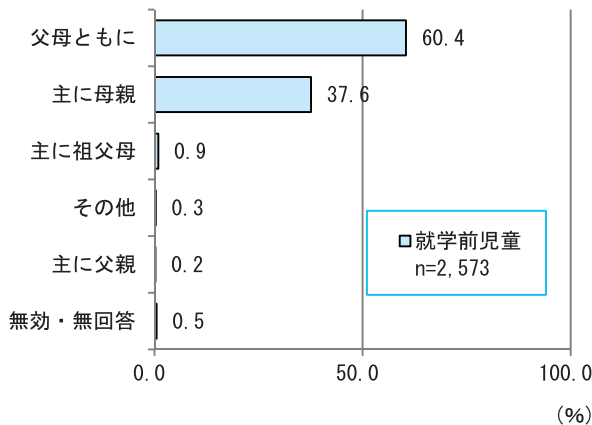
就学前児童のいる世帯の子どもの数は「2人」が41.8%と最も多く、ほぼ同じ割合ながら「1人」が37.9%、「3人」が12.0%の順となっており、2人以上の育児を行う家庭が過半を超えるものの、一人っ子が4割近くとなっています。一方、小学生のいる世帯では、「2人」が53.0%、次いで「1人」が20.5%、「3人」が20.2%となっており、2人以上の子どもの育児を行う家庭が8割近くを占めています。

■図 第5—2—1：子どもの兄弟姉妹の人数

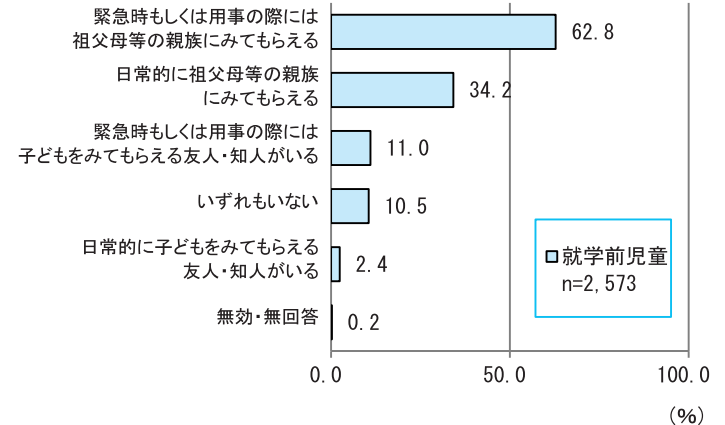


このうち、就学前児童の世帯で、子どもの保育や教育を主に行っている方をみると、「父母ともに」が60.4%で最も多く、次いで「主に母親」が37.6%、「主に祖父母」が0.9%となっています。「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が62.8%、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が34.2%と、多くが親族等協力者の支援を得ている一方、育児に際し孤立状態となりがちな「いずれもない」との回答が10.5%となっています。

■図 第5—2—2：子どもの保育や教育を主に行っている方



■図 第5—2—3：日頃子どもをみてもらえる親族・知人の状況

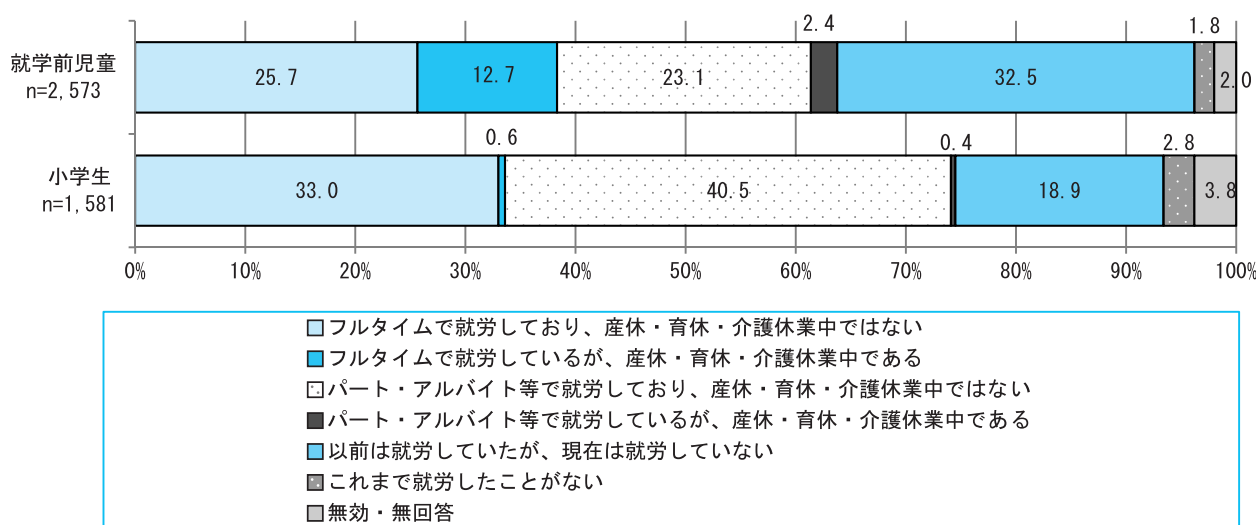


## (2) 金沢市の母親の就労状況

就学前児童の母親の場合、「就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」方が、フルタイムが25.7%、パート・アルバイト等が23.1%と双方で48.8%となっていますが、現在「産休・育休・介護休業中である」方が、フルタイムで12.7%、パート・アルバイト等で2.4%います。

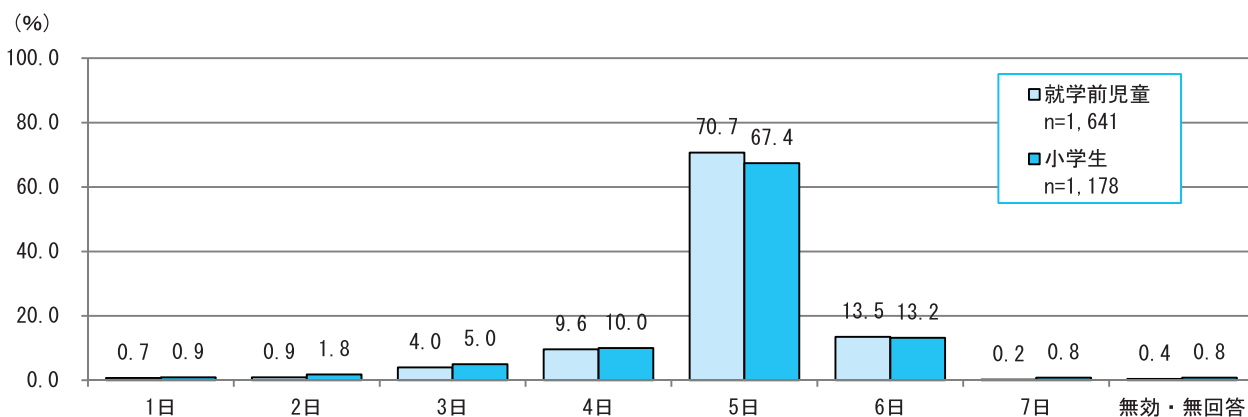
またフルタイムとパート・アルバイト等を合わせると、小学生の母親は、「就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」方が双方で73.5%に達し、現在「産休・育休・介護休業・その他休業中である」方は1%に止まっています。

■図 第5—2—4：保護者（母親）の就労状況



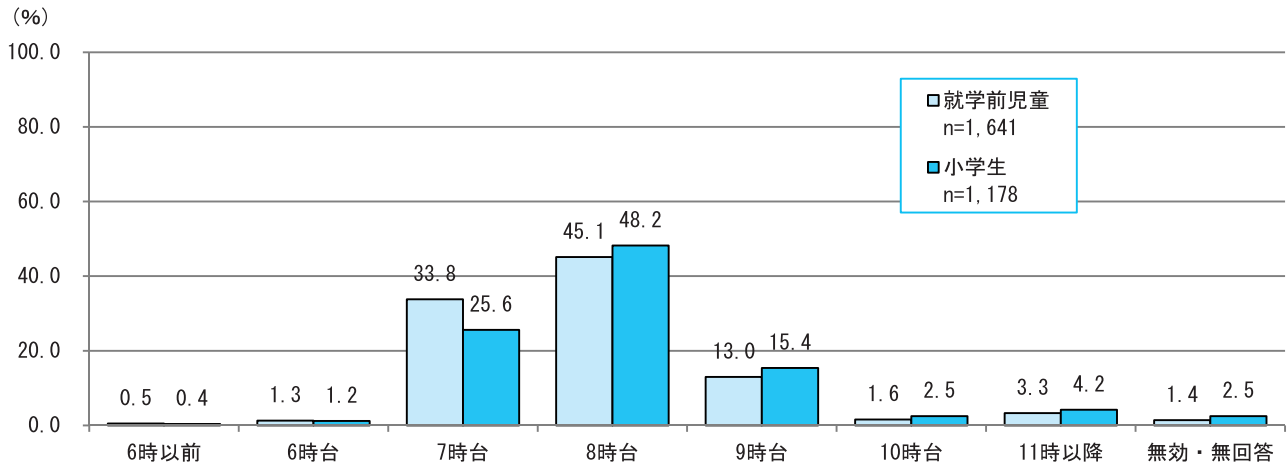
母親の1週当たり就労日数をみると、就学前児童と小学生の母親ともに「5日」に67.4%~70.7%が集中していますが、「6日」も13.2%~13.5%であり、少数とはいえ「7日」も0.2%~0.8%あることから、母親の就労日が6日を超える世帯への教育・保育事業のニーズも少なくないと考えられます。

■図 第5—2—5：保護者（母親）の1週当たり就労日数



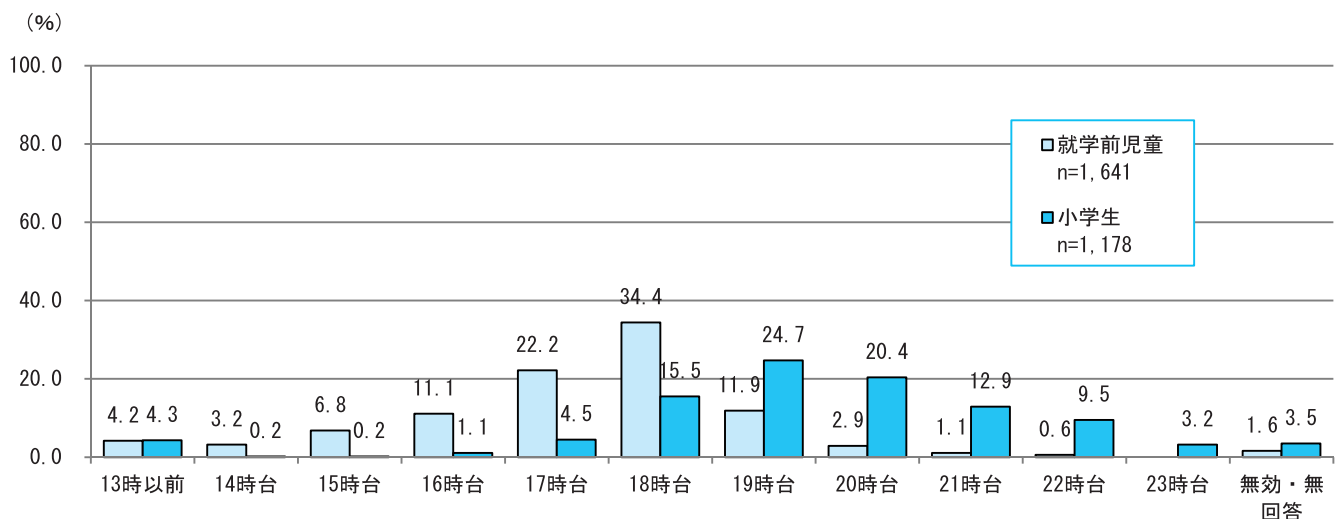
就労している母親が家を出る時間をみると、就学前児童と小学生の母親ともに、「7時台」が25.6%~33.8%、「8時台」が45.1%~48.1%と、もっとも多くなっています。

■図 第5—2—6：保護者（母親）の就労に際して「家を出る時間」



一方、就労している母親の帰宅時間は、就学前児童の母親の場合、「17時台」が22.2%、「18時台」が34.4%と集中しており、「20時台」以降は4.6%に過ぎません。これに対し小学生の母親の場合は、「18時台」が15.5%、「19時台」24.7%、「20時台」20.4%、「21時台」12.9%、「22時台」9.5%となり、就学前児童の母親と比べ、全般的に帰宅時間が遅くなっています。

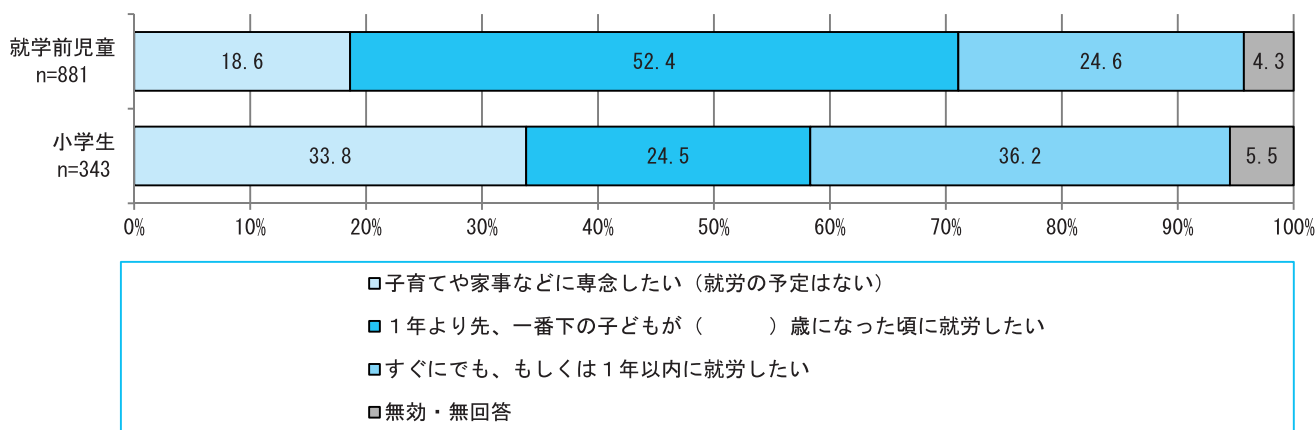
■図 第5—2—7：保護者（母親）の就労に際して「帰宅する時間」





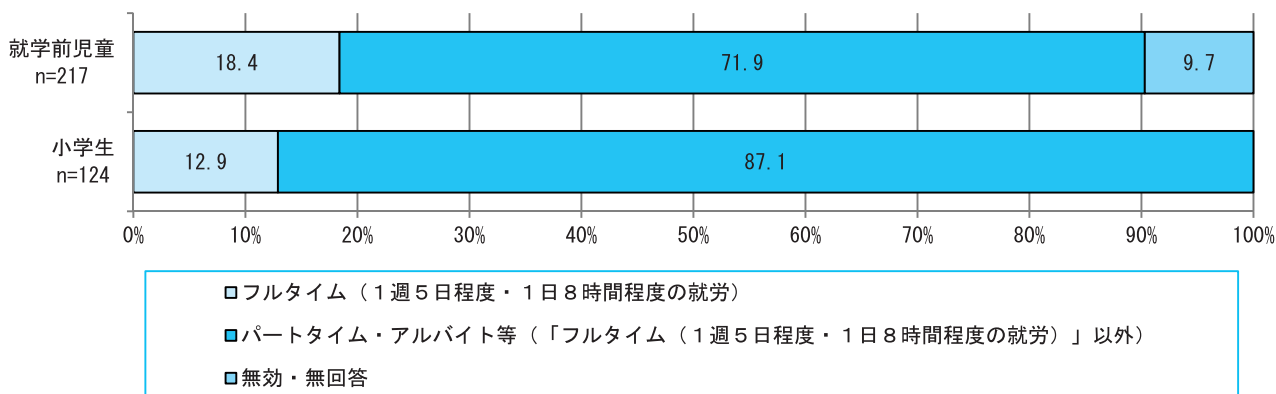
現在就労していない母親の今後の就労希望をみると、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」とする方が、就学前児童の母親で24.6%、小学生の母親で36.2%あります。また、就労希望者全体の希望する就労形態をみると、「フルタイム」が就学前児童の母親で18.4%、小学生の母親で12.9%ありました。教育・保育事業の潜在的な利用希望者が一定数見込まれます。

■図 第5—2—8：現在就労していない保護者（母親）の就労希望に関する状況



（すぐ、もしくは1年以内の就労希望者が）希望する就労形態

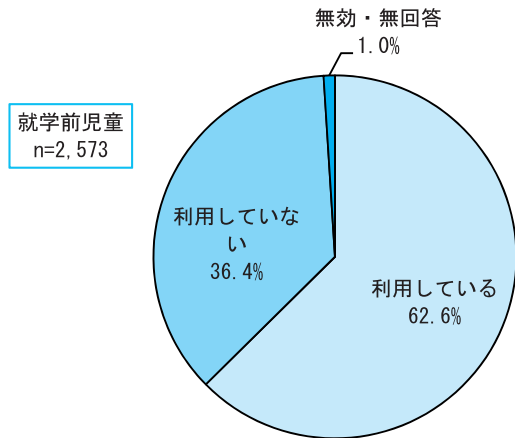
■図 第5—2—9：希望する就労形態（母親）



(3) 金沢市における子育て支援事業の利用状況

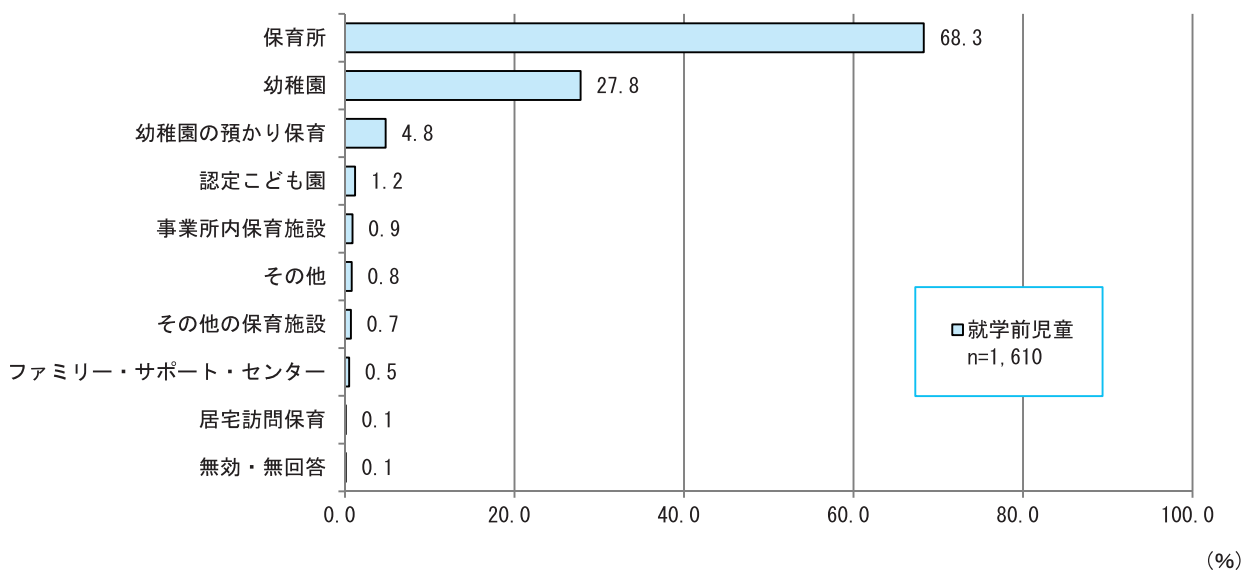
アンケートでは、平日の定期的な教育・保育事業を利用している就学前児童が62.6%います。そのうち「保育所」の利用が最も多く68.3%、続いて「幼稚園」の利用が27.8%、「幼稚園の預かり保育」の利用が4.8%、「認定こども園」の利用が1.2%となっており、「事業所内保育施設」の利用は0.9%、「その他の保育施設」が0.7%などとなっています。

■図 第5—2—10：平日の「定期的な教育・保育事業」の利用の有無



(現行利用者が) 利用している定期的な教育・保育事業

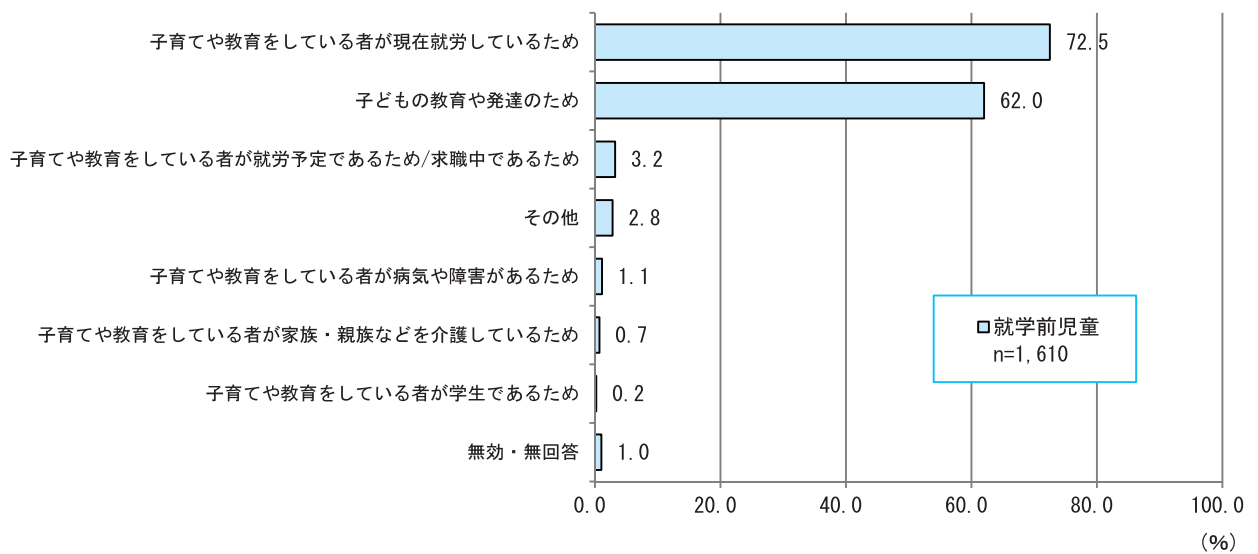
■図 第5—2—11：利用している「定期的な教育・保育事業」の種類



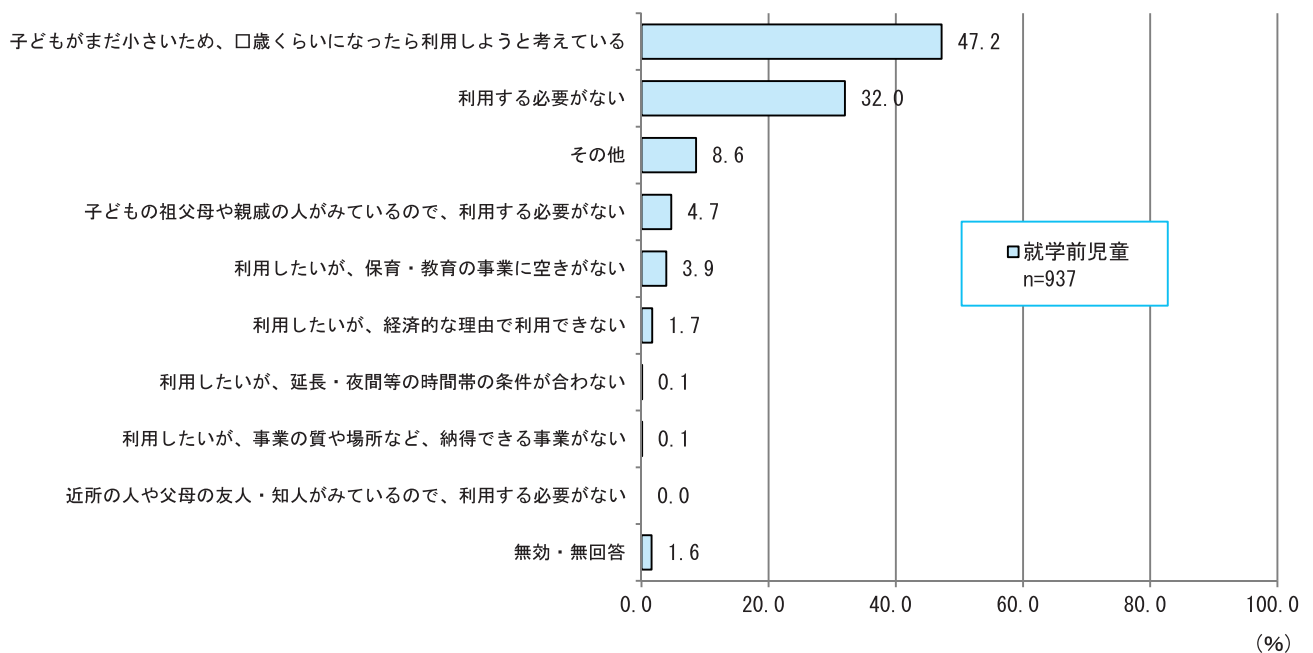
定期的な教育・保育事業を利用する理由のほとんどは、「子育てや教育をしている者が現在就労しているため」72.5%と「子どもの教育や発達のため」62.0%に集中していますが、「子育てや教育をしている者が就労予定であるため/求職中であるため」との理由も3.2%あります。

また、利用していない理由として「子どもがまだ小さいため、〇〇歳くらいになったら利用しようと考えている」が47.2%でもっとも多く、次いで「利用する必要がない」との回答が32.0%となっています。それ以外に、多くはないものの「利用したいが、教育・保育の事業に空きがない」が3.9%、「利用したいが、経済的な理由で利用できない」が1.7%ありました。

■図 第5—2—12：「定期的な教育・保育事業」の利用理由

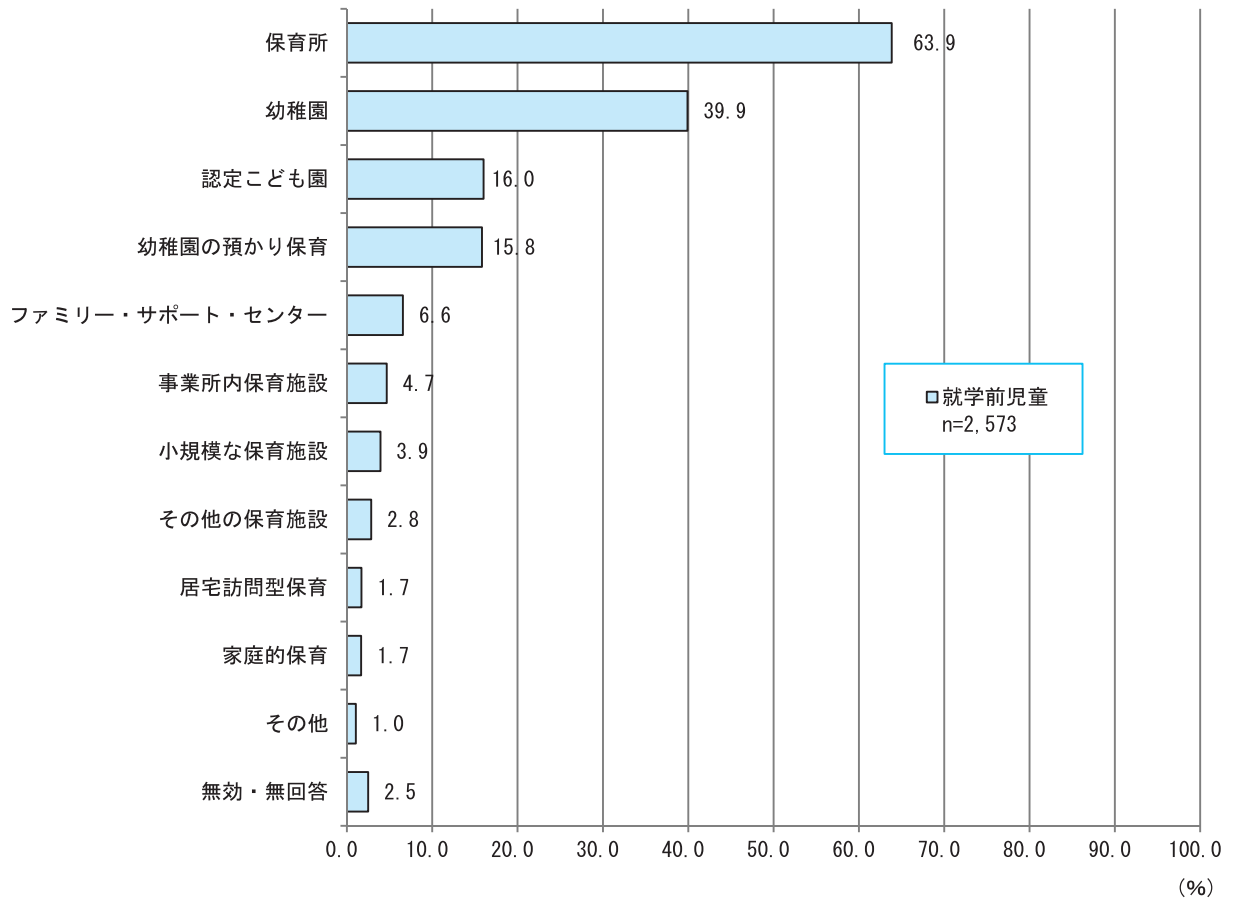


■図 第5—2—13：「定期的な教育・保育事業」を利用しない理由



調査対象者全員に対し、平日の教育・保育の事業として、今後、「定期的に」利用したいと考える事業の回答をみると、保育所が63.9%、幼稚園が39.9%、認定こども園が16.0%、幼稚園の預かり保育が15.8%などの順で続いており、教育・保育施設の利用に対するニーズが高いことがうかがえます。

■図 第5—2—14：平日の教育・保育の事業として、今後、「定期的に」利用したいと考える事業

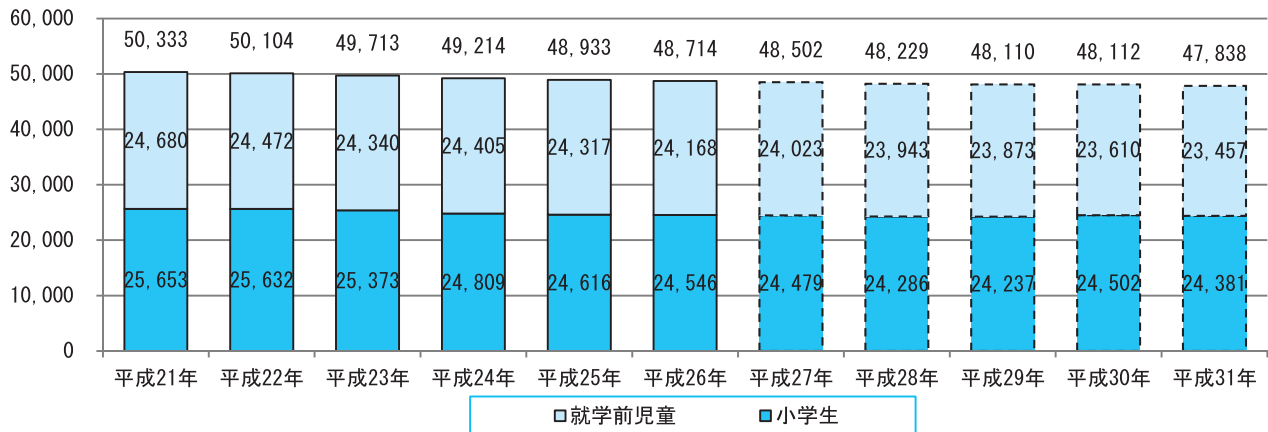


### 3 教育・保育環境の現状

#### (1) 就学前児童及び小学生の児童数の推移

本市は、就学前児童、小学生ともに児童数が緩やかに減少しており、計画期間中もこの減少傾向が継続するとみられます。

■図 第5-3-1：金沢市の就学前児童及び小学生の児童数の推移と計画期間中推計  
就学前児童、小学生(人)

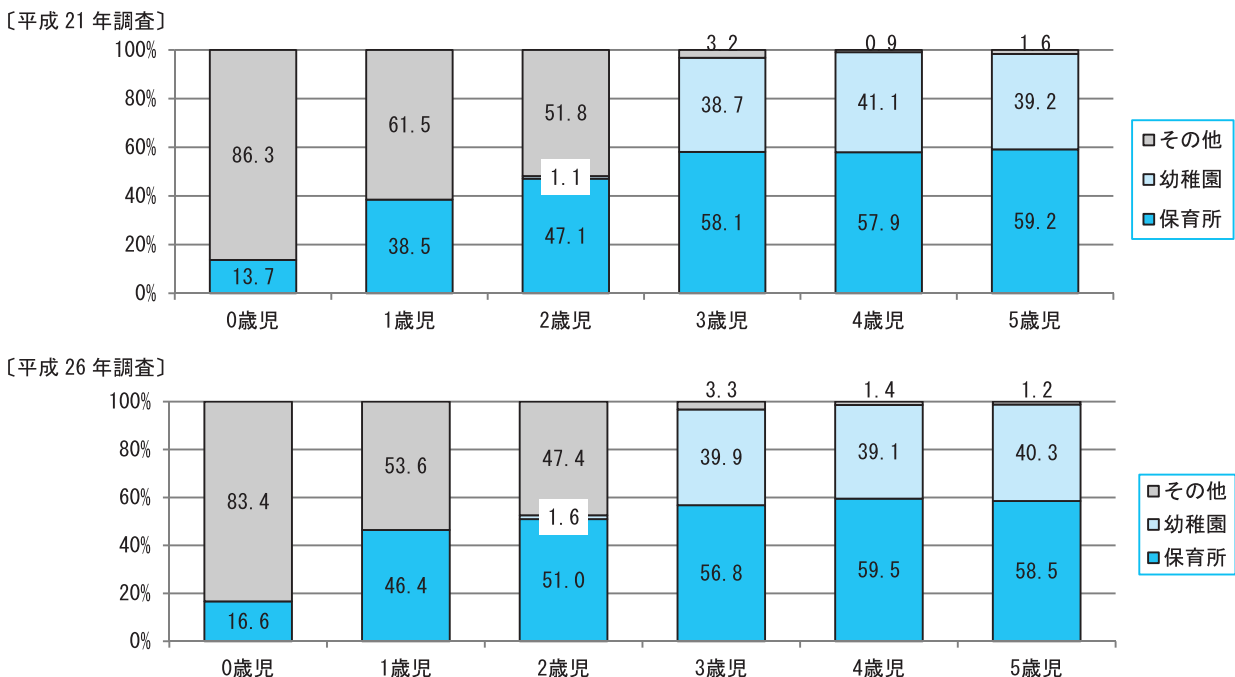


#### (2) 金沢市の就学前児童の日中の居場所

金沢市の就学前児童が日中の時間を過ごしている居場所をみると、平成21年には、「保育所」に0歳児13.7%、1歳児38.5%、2歳児47.1%、ほとんどが自宅と思われる「その他」に0歳児86.3%、1歳児61.5%、2歳児51.8%となっています。

これに対し平成26年には、「保育所」に0歳児16.6%、1歳児46.4%、2歳児51.0%、「その他」に0歳児83.4%、1歳児53.6%、2歳児47.4%となっており、0歳～2歳児の保育所利用率が上がっています。

■図 第5-3-2：金沢市の就学前児童の各歳年齢階級別でみた居場所（平成21年及び平成26年調査）



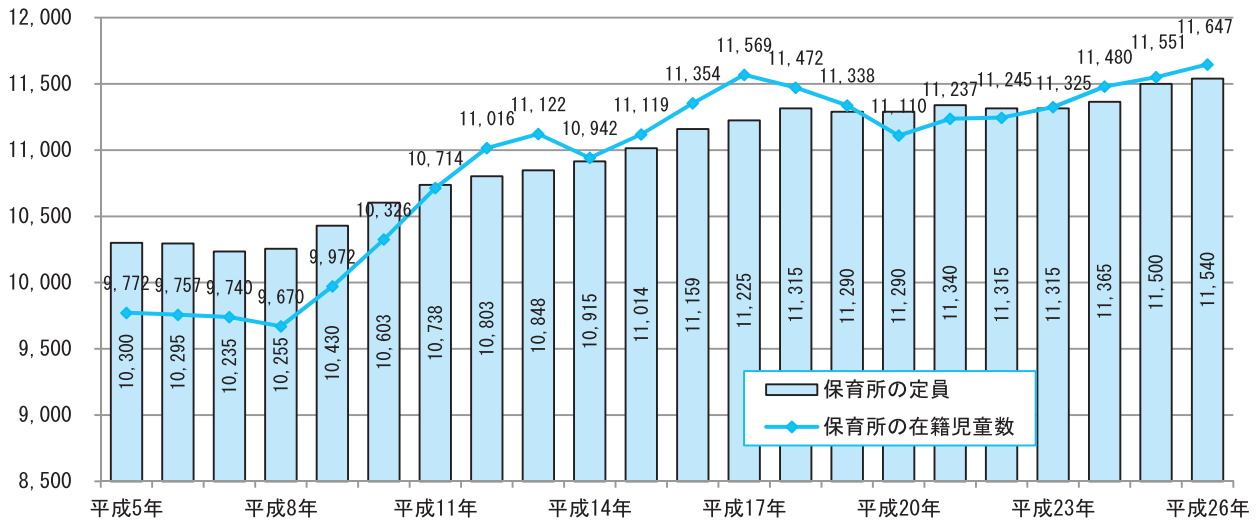
### (3) 保育所の在籍児童数及び定員の推移

本市では、保育所の在籍児童数が徐々に増加しています。直接的には、前項でみた 0～2 歳児の保育所利用率の上昇が影響していると思われますが、子育て比率のもっとも高い 25～49 歳女性の労働力率上昇が、保育需要の拡大の背景にあるものと考えられます。

在籍児童数の増加に対応するために、保育所の定員も増加してきました。

■図 第 5—3—3：金沢市の保育所の在籍児童数及び定員の推移

保育所定員、在籍児童数(人)

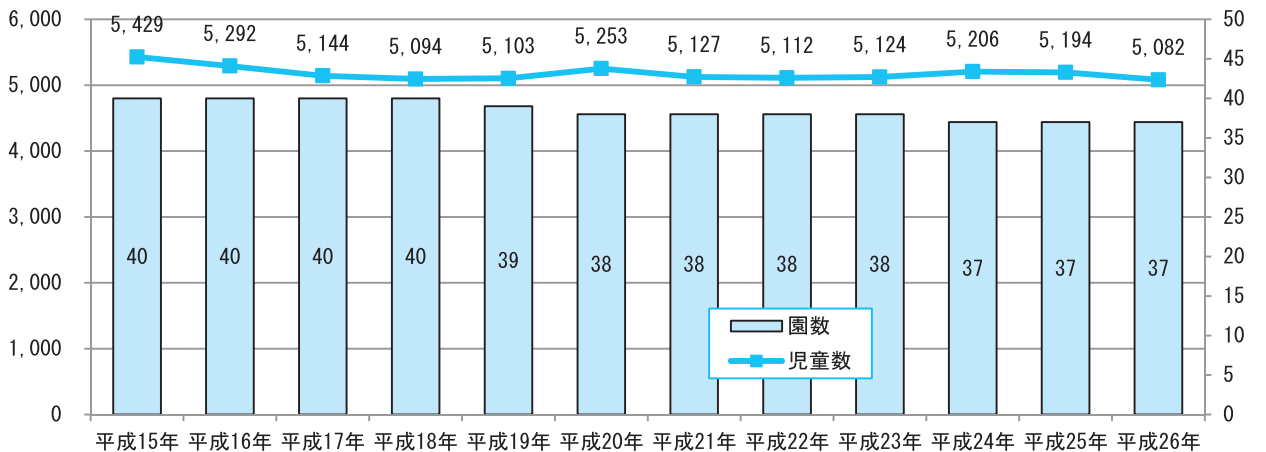


### (4) 幼稚園の在園児童数及び幼稚園数の推移

本市では、幼稚園の在園児童数が近年ほぼ横ばいで推移しています。幼稚園の園数は平成 19 年以降徐々に減少し、平成 26 年には 37 園となっています。

■図 第 5—3—4：金沢市の幼稚園数及び在園児童数の推移

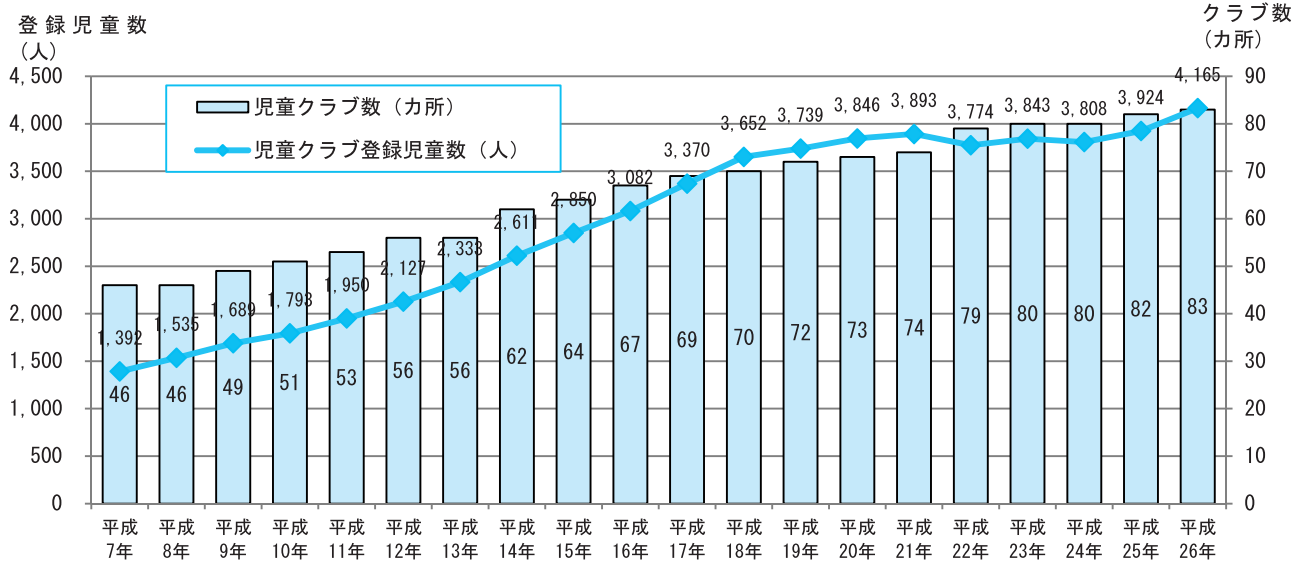
在園児童数(人)



(5) 放課後児童クラブの登録児童数及びクラブ数の推移

本市では、放課後児童クラブの登録児童数が平成 22～24 年を除き、増加しています。児童クラブ数は、平成 26 年度当初には 83 カ所となっています。

■図 第 5—3—5：金沢市の放課後児童クラブの登録児童数及びクラブ数の推移



(6) 保育事業等の実施状況

ア) 保育事業

平成 26 年 4 月 1 日時点での、金沢市内の区域別でみた保育所数とその定員は以下の通りです。

■表 第 5—3—6：金沢市の保育所の区域ごとの現況

平成 26 年 4 月 1 日現在

区域	市立保育所		県立保育所		私立保育所		計	
	箇所数	定員	箇所数	定員	箇所数	定員	箇所数	定員
中央					9	680	9	680
東部					21	1,720	21	1,720
南部	4	412	1	90	22	2,059	27	2,561
北部	6	481			11	1,170	17	1,651
駅西・臨海 A					11	1,345	11	1,345
駅西・臨海 B	1	98			10	1,585	11	1,683
西部	2	220			14	1,680	16	1,900
計	13	1,211	1	90	98	10,239	112	11,540

イ) 一時預かり事業

平成 26 年 4 月 1 日時点での、金沢市内の区域別でみた一時預かり実施保育所及び一時預かり拠点保育所の施設数は以下の通りです。

なお、平成 27 年秋には西都 1 丁目に一時預かり施設（定員 10 名程度）を開設する予定です。

■表 第 5—3—7：一時預かり事業施設の区域ごとの現況

平成 26 年 4 月 1 日現在

区域	一時預かり実施保育所	一時預かり拠点保育所	計
中央	7	2	9
東部	15	6	21
南部	19	6	25
北部	10	6	16
駅西・臨海 A	9	1	10
駅西・臨海 B	7	4	11
西部	10	3	13
計	77	28	105

ウ) 病児・病後児保育事業

平成 26 年 4 月 1 日時点での、病児・病後児保育施設は以下の通りです。

■表 第 5—3—8：病児・病後児保育施設の現況

平成 26 年 4 月 1 日現在

施設名	所在地	定員（人）
石川県立中央病院 病児保育室ひよこ	鞍月東 2 丁目	4
金沢大学 病児保育室たんぼぼルーム	宝町	4
健生クリニック 病児保育室ほっとルーム	平和町 3 丁目	8
城北病院 病児保育室はっぴ〜	京町	4
聖霊乳児院 病児デイサービスセンター	長町 1 丁目	6
松田小児科医院 ひまわりるーむ	片町 2 丁目	4
横井小児科内科医院 病児保育室こりすの里	菊川 1 丁目	4



エ) 子育て支援短期利用事業

平成26年4月1日時点での、金沢市内のショートステイ事業（短期入所生活援助事業）及びトワイライトステイ事業（夜間養護事業）の施設は以下の通りです。

■表 第5—3—9：ショートステイ事業（短期入所生活援助事業）の現況

平成26年4月1日現在

施設名	所在地	対象
こども家庭支援センター金沢	平和町3丁目	18歳未満の子ども
聖霊乳児院	長町1丁目	2歳未満児

■表 第5—3—10：トワイライトステイ事業（夜間養護事業）の現況

平成26年4月1日現在

施設名	所在地	対象
こども家庭支援センター金沢	平和町3丁目	18歳未満の子ども
野町保育園	野町3丁目	18歳未満の子ども

オ) 地域子育て支援拠点事業

平成26年4月1日時点での、金沢市内の地域子育て支援拠点は以下の通りです。

■表 第5—3—11：こども広場の現況

平成26年4月1日現在

施設名	所在地
金沢駅こどもらんど	木ノ新保町
教育プラザ富樫 子育て広場	富樫3丁目
近江町交流プラザ ちびっこ広場	青草町
泉野こども広場（泉野福祉健康センター内）	泉野町6丁目
元町こども広場（元町福祉健康センター内）	元町1丁目
駅西こども広場（駅西福祉健康センター内）	西念3丁目

■表 第5—3—12：地域子育て支援センターの現況

平成26年4月1日現在

施設名	所在地
石川県済生会保育園子育て支援センター	本町1丁目
泉の台幼稚園「ぴーちゃんのおうち」	泉野町4丁目
真行寺むつみ苑保育所子育て支援センター	石引2丁目
光保育園「ひまわりのおうち」	神宮寺1丁目
安原保育園子育てセンター	下安原町東
龍雲寺保育園「ぐりとぐらの日」	寺町5丁目
中村町保育所「ほんわかルーム」	中村町

